

都市農業への挑戦!

一 地場野菜・生活クラブ農園 1976年

こんな近くに畑があったのね。目の前でとれる野菜が食べたいわねえ。

事務局

自分たちでやってみよう!

問題もいろいろでくる。

形もサイズもバラバラ

泥つき

余剰対策...

自然相手の農産物を受け取るにはこちらいろいろ工夫が必要なんだね。

1976年11月保谷で、12月町田で実験取組み開始!

100班が参加!

注文・集計

仕分け

配送の道案内

集合

市役所に相談してみよう!

農家を紹介してもらおう!

流通のシステムはあー

まて自分たちで運営!!

1995年 世界貿易機関 (WTO) 発足!

輸入自由化の時代に

輸入野菜が安すぎてやっつけていけない

農家の高齢化・後継者不足

東京の農家・農地が減り続ける...

食料自給率低下

多くの休耕地ができてしまう!

食を支える他にできることってあるの?

身近に農地がある暮らしはできないの?

輸入野菜が安すぎてやっつけていけない

スーパードッグ

1983年

東京全体で本格的な農産物取組みスタート!

やってみよう!

2002年 農作業受託組織「NPO法人たがやす」設立!

町田を中心に会員農家への援農の紹介町田市からの受託で農業研修を実施!

2003年 農安心ネットワーク結成!

生活クラブと提携する東京近郊の地場生産者の会

「農」を身近に感じられるようになった!

組合員との交流も深めていこう!

デポーへの地場野菜の出荷もしてます!

都市でも市民参加で育てる活動が始まる

がんばろっ!!

生活クラブが農業参入へ!

2009年の農地法改正で法人の農業参入が緩和したんだよね。

生活クラブも農地を持てるんじゃない?

え?!

生活クラブも農地を持てるんじゃない?

組合員の参加のしき

農地を持つには

生活クラブも農地を持てるんじゃない?

2011年 農業体験農園のらっこしみずのらっこおひなま開園!

提携生産者の畑で指導を受ける

ドトド...

2016年 生活クラブ農園 あきる野 スタート!!

農業体験農園

直営農場

農園は二つ! 「直営農場」と「農業体験農園」

プロの指導!

農機具や種も生活クラブが用意します。

農場ボランティア

農業にできるだけ頼らない!

生きものや環境にやさしい農業をめざそう!

入園者どうしの情報交換や交流も!

育った野菜は出荷!

食べて応援! 届くのが楽しみ!

デポー

組合員宅

ここは元は荒れた栗畑の休耕地だったよ。

休耕地も活かして自分で育てた野菜が食べられるのね!

作物が育つところを子どもに見せられる!

固定種の野菜を育てるのもドキドキ!

2017年 農あるまちづくり委員会設置!

作りやすく改良されたもの F1 (エフワン) 種

- 均一なものができる
- 安定した収量
- 作りやすい

味よりも作りやすさ重視

今野菜の主流!

おいしい食べ方を考えよう!

固定種を食べて品種を維持して行かなくちゃね!

生活クラブ農園は無農薬や固定種の栽培にもチャレンジしているの!

伝統と文化の中で育まれてきたもの 固定種

- 形、大きさがバラバラ
- 収量が少ない
- 栽培に工夫が必要

味は良いが作りづらい

手間がかかるので一般の農家では取り組みづらい種なんだ。

農を通して様々な人が出会い、交流し、参加する場をつくっていきましょう!

地場野菜の取組み

野菜の取組みで当初一番の問題だったのは、需給調整だった。欠品も多い一方で、沢山できたときには注文以上に引き取ってもらっていた。また、1987年頃からは、形もサイズもバラバラな大量の旬の野菜を加工することで生産者や共同購入を支えようと、加工事業を始めるワーカーズ・コレクティブも現れた。

輸入自由化の時代

1995年WTO(世界貿易機関)が設立すると、食の安全性はおさざりのまま、農産物の輸入拡大はすすみ、1965年にはカロリーベースで73%もあった食料自給率は2018年には、37%にまで下がっていった。

生活クラブでの野菜の取組みは徐々に増えていったが、地場野菜だけでは種類も限定され、欠品も多く「当てるにできない」といわれる状況であった。これらの問題に対して、2000年に全農(全国農業協同組合)との共同事業に取り組み、持続可能な産地を全国規模で提携していくこととした。2019年現在、交流関係が深く生活クラブの独自規格に従って出荷している「提携生産

農あるまちづくりへむけて

全農との提携の一方で、援農や就農支援、地場生産者との連携によるデポーへの出荷など都市農業へのアプローチもすすめられた。2009年の農地法改正で、企業(法人)による農地の所有に対する規制が緩和されたことを受けて生活クラブでは、あきる野に直営農場をスタート。農業体験や、無農薬栽培、固定種の栽培を行ない「農あるまちづくり」の実践にチャレンジしている。

種を自家採取しても次世代で同じ性質のものはないF1種に対して固定種はそれが可能。ただし、栽培や食べ方に工夫も必要。地域の伝統に根差した固定種は、食べる文化も伴っているので、価値観の共有が重要になってくる。生活クラブ農園では「寺島ナス」や「内藤かぼちゃ」などさまざまな固定種に取り組んでいる。また、地場生産者からは、「新黒水菜小松菜」や「黒田五寸人参」などがデポーへ出荷されている。